
第2章 狭山市消防団の誕生

● 自治体消防時代の幕開け

昭和23年3月7日、消防組織法が制定され、明治以来75年間にわたり警察機構の中に包含されていた消防が、警察から完全に分離独立するとともに、市町村がその責任において管理する自治体消防制へと移行することとなった。

さらに、同年7月24日、「消防組織法」の一部が改正され、同政令に規定されていた消防団に関する基本的事項は、法律で定めるべきものとするという建前をとって「消防組織法」に組入れられたが、その設置については、地方的な要求に応じるものとして、市長村長の判断にゆだねられた。消防団は、各市町村の任意設置に改められ、指揮監督権が市町村長、消防長、消防署長に移管された。

消防組織法の施行に伴い消防事務は警察から市町村に移譲され、市町村は消防団のほか、消防本部消防署の設置ができることとなった。

入間川町長石川求助氏は昭和23年3月7日付で当時、入間川町消防団長であった、甲田義英氏を入間川町消防長に拝命、また、同氏を本部長として係員3名により入間川町消防本部消防係が設置され、自治体消防制度が展開され始めた。

昭和23年5月6日には、消防組織法第21条「市町村相互の応援」により火災応援出動区域の協定が示された。

第1分団 奥富村上奥富 堀兼村 三ツ木
第2分団 柏原村 奥富村 堀兼村

第3分団 水富村 豊岡村 入間村

第4分団 豊岡町黒須

ジョンソン飛行場

備考 所澤町は第2、3分団の内、令により自動車ポンプ1台とする。

昭和23年8月5日、入間川町消防団条例が告示され団条例による運用が開始され、昭和23年11月20日には、石川求助町長が入間川町消防本部消防長を兼ね、消防行政の舵取り役となった。

昭和25年5月30日には、原田章一氏を入間川町消防団長に、また、小島良作氏を副団長として、町議会へ推薦し両名が原案可決で議決され新体制を整えた。

昭和29年7月1日、入間川町・入間村・堀兼村・奥富村・柏原村・水富村の1町5か村の合併により狭山市が誕生した。

当時の狭山市には、7地区に消防団があり、各地区消防団条例において運用されていた。

合併前の各地区消防団

入間川町消防団 団長 小島良作

4分団 総員107名（所沢警察管下）

入間村消防団 団長 齊藤勝元

2分団 総員82名（所沢警察管下）

堀兼村消防団 団長 西海良雄

7分団 総員107名（所沢警察管下）

奥富村消防団 団長 平本英一郎

4分団 総員186名（川越警察管下）

柏原村消防団 団長 吉田良助

3分団 総員112名（川越警察管下）

水富消防団 団長 志村 清

2 分団 総員 97 名（飯能警察管下）

行政合併後、各地区消防団条例・組織はそのままの形を引き継いたが、合併により、各消防団は狭山市連合消防団として編成され、連合消防団長（市長職務執行者）に村上昇氏が就任、狭山市消防団の原型が組織されていたのである。当時の消防団員の団結は固く、その活躍は目覚ましいものがあった。

昭和 29 年 12 月 1 日には、連合消防団査閲が入間川小学校々庭で実施するなど、連携を強固としていった。

また、その頃から連合消防団の改組について、団長会議が開催され、協議を重ねていた。

● 狭山市消防団の誕生

狭山市は、昭和 29 年（1954）7 月 1 日、入間川町、入間村、堀兼村、奥富村、柏原村、水富村の 1 町 5 か村の合併により埼玉県内 15 番目の市として誕生した。当時の人口は約 3 万人、武蔵野の面影を残す雑木林と茶畑、そして実り豊かな水田が広がる、関東平野の典型的な農村地帯であった。

初代市長には石川求助氏が就任し、都市と田園、両方の長所を併せ持った「田園都市狭山」を目指して、市政が幕を明けた。

翌、昭和 30 年 4 月 1 日、狭山市は、入間川町消防団、入間村消防団、堀兼村消防団、奥富消防団、柏原村消防団、水富村消防団で編成されていた狭山市連合消防団を改組、同日、狭山市消防団条例を施行し、村上昇氏を初代団長に、また、小島良作氏を副団長として陣営を整え 1 団 7 分団に改編、定員 708 名

を以って狭山市消防団が発足した。

狭山市消防団発足時の組織

消防団長 村上 昇

副 団 長 小島良作

第 1 分団（入間川地区）

区 域 沢・田中・峰・旭・菅原全町

分 団 長 山本栄一郎

副分団長 長根正治

第 2 分団（入間川地区）

区 域 子ノ神・鵜ノ木・本町

御幸町・諏訪全町

分 団 長 岡野常吉

副分団長 太田忠平

第 3 分団（入間地区）

分 団 長 齊藤勝元

副分団長 栗原一郎

第 4 分団（堀兼地区）

分 団 長 栗原定治

副分団長 奥富仁平治

第 5 分団（奥富地区）

分 団 長 大野宗一

副分団長 堀越太郎

第 6 分団（柏原地区）

分 団 長 吉田良助

副分団長 野口武平

第 7 分団（水富地区）

分 団 長 飯島重雄

副分団長 澁谷宗作

昭和 31 年 4 月 1 日には、組織を簡潔且つ機能的とするため、7 分団 15 部に再編成し充実を図った。